日本バハイ共同体における言語的障壁に関する一考察

尊田　望

<概要>
現在、日本バハイ共同体内では、言語問題に関して、以下に挙げる三つの疑問が頻繁に提示される：1)この時代には、「言語的統合」が神により定められているのに、なぜ言語障壁が存在するのか。翻訳や通訳は本来必要なものであろうか。2)英語の知識は、バハイ共同体に加入するための必要な条件か、3)バハイ原則の一つ、「国際補助語採用」はどうなったのか。本論文では、これらの疑問について考察した。その結果、言語的多様性や翻訳・通訳には、それなりの利点もあるが、不利な点も多いことが判明した。また、翻訳・通訳は、言語的統一が達成されるまでの、一時的手段としてそれなりの機能は果たしうるが、あくまで、究極の目標は、世界中の人々が、母国語と国際補助語を習得することであることが指摘された。また、遠い将来には、世界中の人々の言語が一つに統一されることが好ましいとバハオラによって指摘されていることも明らかになった。

1．問題

現在、日本バハイ共同体は、「バハイ啓示」という、この時代のための巨大かつ偉大なる「価値体系」と「生き方」を与えられていながら、言語的障壁という問題のために、行政活動、共同体活動、精神活動が、停滞しているように見受けられる。同共同体内では、言語問題に関して、以下に挙げる三つの疑問がよく提示される。1)この時代には、「言語的統合」が神により定められているのに、なぜ言語障壁が存在するのか。翻訳や通訳は本来必要なものなのであろうか。2)英語の知識は、バハイ共同体に加わるための必要な条件か。3)バハイ原則の一つ、「国際補助語採用」はどうなったのか。本考察では、この三つの疑問を取り扱う。

2．翻訳・通訳の機能

A．利点：1)ひと通り読んだだけでは把握できない深い、内なる意味が、明らかにされる。2)神の言葉を唱えると、それを唱える者と回りの者に影響を及ぼすと言うバハオラの言葉は、翻訳されてもそうである。3)異なる言語は、異なる世界観・見地を提供する。4)翻訳の困難性は、協議を要し、協議のプロセスを促進する。5)翻訳という壁により、教えの純粋性を保護し、悪用・乱用から守る。6)翻訳活動は、文芸を刺激・促進する。7)翻訳は、バハイの学者を養成する。

B．不利な点：1)膨大な時間とエネルギーと金を要する。2)訳者の知識や理解が影響し、本文の意味を歪めうる――「真理独立探求」の原則の妨害となる。3)訳では、原文のニュアンスが完全に伝わらない。4)訳への依存は、他言語を学ぶ動機を弱める。5)「世の中に完全な翻訳などありえない」し、また，「翻訳は、この世で一番難しいことである」。

3．言語的多様性の意味

A．起源：言語学的には不明。ただし、聖書には「バベルの塔」の話しが記されており、当時、一つの言葉を話していた人々は、天に届く塔を建てて、地上に散らばらぬように計画したが、これを傲慢と見た神は、互いの言語が分からぬようにし、人々は、地上に散らばっていった、という。

この象徴的な意味は、人類が謙虚になり、真の意味での文明・世界秩序を確立するまで、言語統一は実現しないということのようである。

B．言語的多様性の意義：世界の美と調和を促進する役割もある。また、諸言語は、異なる世界観や知識体系を生みだし、人間世界の思想を豊富なものにした。

C．日本語の言語的位置：世界の主要言語の多くは、インド・ヨーロッパ語族に属する。神の言葉を伝達する手段となったヘブライ語やアラム語やアラビア語は、インド・ヨーロパ語族かアジア・アフリカ（ハム・セム）語族に属する。日本語は、ウラル・アルタイ語族（その他、モンゴル語、トルコ語、朝鮮語など）に分類されることがよくあるが、実際には、その系統はまだ証明されておらず、朝鮮語とともに、正体のはっきりしていない言語であり、いわゆる、孤立言語の一つである。朝鮮語は日本語に最も近いとされるが、それでも、英語とフランス語の類似性に比べれば、その差は、非常に大きい。

D．言葉の性質：バハオラ曰く、あらゆる言葉には精神が付与されているという。つまり、言葉は、脳と舌を使って発する単なる「物質的現象」ではなく、精神的要素を含む、神秘性もあると言える。つまり、言葉は、心と密接に関係するのである。

また、バハオラは、言葉の中の王は、「神の言葉」であると述べている。神の言葉の本質は、文字や音声を超越した、精神であり、その影響力は、無限であると言う。しかし、それが、人間の言葉（たとえば、アラビア語やペルシャ語など）で啓示されると、そのような言語の制限を受ける。啓示には、物質的啓示と精神的啓示の二種類あると言える。前者は、人間的言葉を通して実現される。後者は、物質的啓示が実現する前にすでに、精神的世界において、人間的言語の仲介無しに、直接，顕示者を通して表される。われわれ人間は、人間の言葉を通して啓示された神の言葉を読み、瞑想することにより、その精神的パワーの恩恵を預かることができるのである。瞑想は、内なる自分、あるいは神との直接の会話であり、物質的言葉を超越した行為であるからである。これが、毎朝、毎夕神の言葉を唱えることの意義である。

また、バハオラは、「神の言葉」の理解は、人間的学習でなく、「心の純粋性，魂の神聖さ、精神の自由さ」に依存すると述べている。ここに、知的訓練に大きな比重をおく傾向にある今日の「教育」に対する深遠なる示唆がある。

4．解決策：概念的変革

A．バハオラのビジョン：母国語の他に国際補助語を採用し、世界中に広めることがバハイの原則である。しかし、バハオラは、将来、やがて国際補助語でなく、世界の諸言語が、一つに統一される日についても語っている。しかし、その日は、遠い将来である、と守護者の言葉を代筆した手紙は指摘している。

国際語の選択者について：バハオラは、「世界の統治者や大臣らの集まり」が国際語を選ぶべきであると言い、また、別のところでは、「万国正義院」がそうすべきだとも述べている。これは、選択には二段階があり、まず、前者が、自発的に選択し、後に、万国正義院の権限が認められてから、後者が、新たに選択し直すということであろう。

国際語自体について：バハイ文書には、「何語」が国際語になるべきかの指摘はない。ただ、現存する言語か、発明語かという選択の余地は与えている。バハイは、世界の諸政府や万国正義院が選ぶ言語の支持者であり、何語を支持するという立場にはない。現存語では、最近まではフランス語が有力であったし、スペイン語もしばらく優勢を誇った。しかし、現在最も有力なのは、英語である。しかし、政治的・言語的・感情的理由などから、正式な国際語はいまだ採用されていない。

そこで有力なのが、発明語の案である。その中で最も有力なのは、エスペラント語である。しかし、これもまた、正式に採用はされていない。エスペラント語にも、まだ改善の余地がおおいにあると言えよう。

ペルシャ語・アラビア語について：アブドル・バハは、この周期、ペルシャ語が注目され、世界中で学習されるであろうと述べている。また、バハオラは、アラビア語は、その雄弁性において優れ、その表現力は、他の言語に類を見ないと賞賛し、もし世界の人々が、それを習得したら、神はお喜びになるであろうと述べている。しかし、それでも、国際語が、これらの言語であるべきという指摘は、いずれの場合も、ない。

B．日本の精神的運命：地理的・言語的に孤立した日本が、世界の経済を動かす国になり、人類の和合一致の確立の先頭に立つべく挑戦を受けた。なぜ日本がそのような使命を背負うことになったのか？これは運命か？地理的にももっと中央に位置し、言語的にももっと主要な語族の国の方が有利ではないか？

しかし、19世紀に最も堕落した社会であったペルシャがバハイ啓示の発祥の地となったのと同じ原理が、ここでも働いていると言えるだろうか？つまり、最も虚弱、問題のある場所において、復活が実現すれば、バハイ啓示のパワーが真に証明されることになる。孤立した条件下にある日本が、世界共同体確立の先導者的役割を果たせれば、他のいかなる国も、世界共同体の一員になれることが保証されるのである。日本にとって、乗り越えるべき最大の障壁のひとつは、「言語」と言える。実際、世界における言語の壁は、想像以上に大きく、深刻である。

C．外国語習得と精神的なガイダンス：外国語の習得は、イデオロギー、政治的要素、文化、風紀、習慣などが関与してくる。現存する言語を共通語として習得する際、それを受け入れる国は、その言語とともに入ってくるそれらの要素を拒む場合が多い。特に、そのような要素がその国の道徳や倫理と合い入れない場合に多い。言語計画には、適切な精神的ガイダンスが必要である。自国の健全な要素を失わずに、言語を習得にするには、精神的価値観が必要である。バハイ・システムは、そのような精神的ガイダンスを基盤とした言語計画を可能にする。

D．試練：人間の成長には、試練が必要であり、言語障壁もそのひとつとして見ることもできる。世界中の人々が、国際語の採用と習得のために、努力せねばならない。仮にそれが現存する言語の習得であるとしても、それを母国語とする人々も、それを教えるために、他の国の言語を習得する努力が必要であろう。

また、「国際語」は、当分正式に出現しないかもしれないが、現在バハイ世界の事実上の公用語とも言える英語の習得は、正式な国際語採用までの代用機能を果たし、またそれまでの準備段階的機能も果たせよう。

E．三つの疑問への答：1)言語障壁には、宗教的・象徴的起源がある。それは、人類の謙虚さを問う、神の要求かも知れない。しかし、言語的多様性は、多様な知識体系の形成にもつながった。翻訳・通訳にも、利点と不利な点の両方が存在する。　2)英語の能力は、バハイになる条件ではない。バハイ生活の基盤は、「心の純粋性、魂の神聖さ、精神の自由さ」である。しかし、バハイとしての生活を歩む上で、「国際補助語採用」という原則の実現に貢献する努力も欠かせない。誰も、強制はできないが、国際補助語の前身としての英語の習得も、強く考慮すべき要素と言えよう。3)国際語には候補がいくつかある。しかし、それは様々な要因に左右され、まだ採用されていない。世界の政府と万国正義院が採用決定する日は、まだまだ先のことであろう。

5．解決策：実用的な段階
A．日本人のための英語教育
B．日本に住んでいる外国のバハイのための日本語教育
C．バハイの翻訳者・通訳者の養育
D．言語問題に関する研究会と教育
E．言語問題解決を三年計画の一部にする。

6．結論：
マーチン・ルーサー・キング Jr. 牧師は、「黒人と白人の子供らが丘の上で手をつないで遊ぶ日」という夢を持っていることをかの名スピーチで語った。われわれもまた、「夢」と「ビジョン」を持つことが重要である。「ビジョン」が行動を決定するからである。それは、「ペルシャ語、英語、中国語，アラビア語、日本語．．．などを話す諸民族が皆、丘の上で、共通の言葉で、直接，意志を疎通させる日」というビジョンである。このような夢を持って、われわれは、これからの生活を整えていく必要がある。

参考文献

Abdu'l-Baha. *Abdu'l-Baha in London.* London: Baha'i Publishing Trust, 1982.

---. Ma'idiy-i-Asmani, Vol. 9, p.141 quoted in *Story of My Heart.*

---. *The Promulgation of Universal Peace.* Talks delivered in the United States and Canada in 1912. English translation given during the talks. Wilmette: Baha'i Publishing Trust, 1982.

---. *The Secret of Divine Civilization.* Trans. Marzieh Gail. 3rd ed. Wilmette: Baha'i Publishing Trust, 1979.

---. *Selections from the Writings of Abdu'l-Baha.* Comp. the Research Department of the Universal House of Justice. Trans. by a committee at the Baha'i World Centre and Marzieh Gail. Haifa: Baha'i World Centre, 1978.

---. *Some Answered Questions.* Comp. & trans. Laura Clifford-Barney. 4th US ed. Wilmette: Baha'i Publishing Trust, 1981.

Baha'u'llah. *The Epistle to the Son of the Wolf.* Trans. Shoghi Effendi. Rev. ed. Wilmette: Baha'i Publishing Trust, 1979.

---. *Gleanings from the Writings of Baha'u'llah.* Trans. & comp. Shoghi Effendi. Wilmette: Baha'i Publishing Trust, 1983.

---. *The Kitáb-i-Iqan.* Trans. Shoghi Effendi. 1st pocket-size ed. Wilmette: Baha'i Publishing Trust, 1983.

---. *Tablets of Baha'u'llah.* Trans. Habib Taherzadeh with assistance of a committee at the World Centre. Haifa: Baha'i World Centre.

Barnes, William. "Japan's Spiritual Challenge". Unpublished manuscript.

---. "Japan Will Turn Ablaze: When, Why & How". Unpublished manuscript.

別宮貞徳．『スタンダード英語講座１：英文の翻訳』．東京：大修館,1991年.

Chew, Phyllis Ghim Lian. "Whither the International Auxiliary Language?" *The Journal of Baha'i Studies.* 2.2.1989.

Danesh, Hossain. "Baha'i Scholarship." *Proceedings of the 1st Annual Conference, 1992.* Association for Baha'i Studies—Japan.

Fantini, Alvino E. "Language and World View." *The Journal of Baha'i Studies*, 2.2.1989.

Furutan, Ali-Akhbar. *Story of My Heart.* Oxford: George Ronald.

Gail, Marzieh. *Summon Up Remembrance!* Oxford: George Ronald.

Hoffman, David. *George Townshend.* Oxford: George Ronald.

Importance of Deepening Our Knowledge and Understanding of the Faith, The. Comp. The Universal House of Justice. Wilmette: Baha'i Publishing Trust, 1983.

Index of Quotations from the Baha'i Sacred Writings. Comp. James Heggie. Oxford: George Ronald, 1983.

Japan Will Turn Ablaze! Comp. B. Sims. Tokyo: Baha'i Publishing Trust, 1974.

金田一　春彦．『日本語の特質』．東京：日本放送協会出版，1992年．

Lights of Guidance, The. Comp. Helen Hornby. Revised and enlarged ed. New Delhi: Baha'i Publishing Trust, 1989.

Momen, Moojan. "Scholarship and Baha'i Community." *The Journal of Baha'i Studies*, 1.1.1988.

Noguchi, Mary. "The Universal Language and Bilingualism." *Proceedings from the 1st Annual Conference*, 1992. Association for Baha'i Studies—Japan.

Oates, Stephen B. *Let the Trumpet Sound: The Life of Martin Luther King, Jr.* New York: A Mentor Book (Penguin Books), 1985.

Reischauer, E.O. *The Meaning of Internationalization.* Tokyo: Charles E. Tuttle, 1988.

---. *My Life Between Japan and America.* Tokyo: Charles E. Tuttle, 1988.

Research Department at the Baha'i World Centre. Memorandum dated May 1988.

Ruhiyyih Rabanni. *The Priceless Pearl.* London: Baha'i Publishing Trust, 1969.

佐伯　智義．『科学的な外国語学習法』．東京：講談社，1992年．

澤田　昭夫．『外国語の習い方』．東京：講談社，1985年．

ーーー．『論文のレトリック』．東京：講談社，1985年．

Stevick, Earl W. 『外国語の教え方』．梅田，石井，北条　訳．東京：サイマル出版，1992年．

鈴木　崇夫．『脳のメカニズムからみた英会話取得法』．東京：三一書房，1992年．

Synopsis and Codification of the Laws and Ordinances of the Kitab-i-Aqdas. Prepared by the Universal House of Justice. Haifa: Baha'i World Centre, 1973.

Taherzadeh, Adib. *The Revelation of Baha'u'llah: Vol. 1, 1853-1863.* Rev. ed. Oxford: George Ronald, 1980.

---. *The Revelation of Baha'u'llah: Vol. 2, 1863-1868.* Oxford: George Ronald, 1977.

---. *The Revelation of Baha'u'llah: Vol. 3, 1868-1877.* Oxford: George Ronald, 1983.

---. *The Revelation of Baha'u'llah: Vol. 4, 1877-1892.* Oxford: George Ronald, 1987.

田中　菊夫．『英語学習者のために』．東京：講談社，1992年．

内村　艦三．『外国語の研究』．東京：講談社，1992年．

Volker, Craig. "Translating the Baha'i Writings". *The Journal of Baha'i Studies*, 2.3. 1990: 67-78.

渡辺　昇一．『スタンダード英語講座３：英語の歴史』．東京：大修館,1991年．